

## 自立・競争的環境で育てる若手研究者育成プログラム (実施期間：平成 21～25 年度)

**実施機関：新潟大学（総括責任者：下條 文武）**

### プロジェクトの概要

本プログラムは、本学における優れた研究である人間環境科学分野において、その周辺領域との融合的研究を可能とする学際的な研究視点を持った若手研究者を境界領域に養成するもので、若手研究者同士が協力・競争する自立的な研究環境を創るとともに、本学独自のテニュアトラック制度を融合させ、持続的な人材育成プログラムに展開させる。

この取組により、革新的技術を持続的に創造するための知的基盤と後継者育成の環境整備が可能となり、本学全部局・研究所の人材育成・評価のモデルと、他大学・研究機関の人材育成システム改善の先導モデルを作り上げる。

### (1) 評価結果

| 総合評価 | 国際公募・選考・業績評価 | 人事養成システム改革<br>(制度設計に基づく実施内容・実績) | 人事養成システム改革<br>(制度設計に対するマネジメント) | 今後の進め方における取組 |
|------|--------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------|
| A    | a            | a                               | a                              | s            |

総合評価： A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

本プロジェクトでは、学長直属の「若手研究者育成推進室」を既に創設し、テニュアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の採用・育成のマネジメントを一括処理するシステムを作り上げている。また、「ペア採用」という特徴あるテニュアトラック制（以下、「TT 制」という）を実施し、新しい人事システムの定着が期待される。育成環境も十分に整備され、メンターについても若手と師弟関係にない連携教員システムを採用し、若手研究者相互及びその連携教員との間で研究のコンソーシアムを形成するなど、部局と拠点とのバランスを保ちつつ、TT 若手の部局テニュア職での採用をスムーズに進めることを配慮しており、評価できる。なお、女性・外国籍研究者の採用の数値目標（各 20%）を設定し、未達ではあるが、目標達成への努力が続いている。学長のリーダーシップが随所に発揮されており、将来展開と定着化に向けた学内コンセンサスの構築に向かっている。

- ・ **国際公募・選考・業績評価**：十分な公平性、透明性を持った国際公募による TT 若手応募者の選考・審査体制が整備されており、自機関出身者はゼロであったことなどが評価できる。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：研究アイデア、研究経費、研究環境の自立性を謳い、育成環境の整備が進んでいることが評価できる。TT 若手の外部資金獲得率も高く、優秀な研究者輩出が期待できる。
- ・ **制度設計に対するマネジメント**：学長のリーダーシップの下で、PDCA サイクルを活用する体制が構築されている。また、本補助金による TT 制を基に、独自の普及型テニュアトラック制への展開を目指していることは評価できる。
- ・ **今後の進め方における取組**：テニュアポストを 100%用意し、実施期間終了後も 2 名/隔年という無理のない採用を計画している。また、配属予定部局でのテニュアポストとの連動が考慮されており TT 制の定着が期待でき、高く評価できる。